

# 令和7年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

## 第2回 まちづくり部会 記録

日時：令和8年1月20日（火）午前10時00分～11時30分

場所：刈谷市役所 804 会議室

### 出席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市民ボランティア活動センター	米田 正寛
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕章
刈谷市自治連合会	大野 裕史
NPO 法人子育て・子育てNPO スコップ 理事	米山 裕美
一般公募	吉川 真由美
市民活動部長	伊藤 雅人

### 欠席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市小中学校長会	佐野 恵子
文化工房かりや 代表	久保田富士子

### オブザーバー

団体名・役職等	氏名
刈谷市民ボランティア活動センター	近藤 義夫

### 事務局

所属	補職名	氏名
市民活動部市民協働課	市民協働課長	神谷 友理
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	協働推進係長	遠藤 麻衣香
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランティアネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランティアネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

## 1.開会・あいさつ

- ・定刻になり、協働推進係長が開会を宣し、その後、資料確認を行った。（略）
- ・部会長あいさつの後、議事に移った。

トップの考え方や行動は社会や生活に大きく影響する。市の場合は市長、まちづくりは自治会長、公民館長、地区委員、組長など多様な方が、地域をどうしていこうと考えるかの意識次第で変わる部分は大きい。また、地域の会合では多様な意見が活発に出て、具体化が課題になる。今年度は、この部会の関連で新たな取組が増えている。忌憚のないご意見をいただきたい。

## 2.議題

### 1 まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）の活動状況について

## ■【資料1-1～1-2】を提示し、事務局が説明

### (1) まちコの活動報告

- ①令和7年度1月現在までの活動では、14件、延べ46名のまちコが活動している。派遣活動のうち、第1回部会以降の新規依頼は「築地自治会の新体制への移行に関するフォローアップ」「愛知教育大学からの依頼『地域連携フォーラム2025』でのテーブルファシリテーション」「刈谷市社会福祉協議会からの依頼『桜・東刈谷・東境福祉委員会座談会』のファシリテーション」である。【→a】
- ②今後の予定としては、自主活動として「チャレンジフェスタやってみりん(3/7)」「かりや夢ファンド補助金公開審査会でのまちコくらぶmini(1/24)」が予定されている。【→b】また、派遣活動では、市民協働課からの依頼として「ファンドレポート作成」があり、「協働のまつり場への出席(2/3)」が追加で決まったところである。

### (2) まちコ交流会

- 第2回は、12月14日(日)刈谷市民ボランティア活動センターにて、参加者20名で実施。
- まちコ有志により運営し、「活動収穫祭」として、第1部はまちの活動とまちコの活動の紹介、第2部は第1回に出し合った「住みたいまち」のテーマを掘り下げるワークショップを行った(記録あり)。

### (3) まちコ養成講座「つなぎの学び舎」

- 「つなぎの学び舎」の受講者は20人。全7回連続講座のうち、6回まで開講済。
- 2月7日(土)第7回「わたし発のまちづくりを提案しよう」企画発表会にぜひご参加をお願いしたい。

### (4) まちづくりステップアップ講座

- まちコを含むまちづくり活動をしている人が実践に役立つ力を高める講座。
- 第2回は、令和8年2月21日(土)に「企画会議、会議のデザイン、場づくりの準備」をテーマに実施。ここで企画したものを、来年度春のまちコ交流会に活かす予定。

## 【a=関わった委員からの補足説明】

委員：【a】について：地域連携フォーラムに初めて呼んでいただいた。各テーブルに学生が必ず入って、テーブルファシリテーターとしてまちコがかわり、それぞれのテーブルごとに意見が出されていた。愛教大の中でまちコの活躍の場があってよかった。企業など民間の方との交流、意見交換の場としてよかった。

## 【b=関わっている委員からの補足説明】

委員：【b】について：8月11日「中高生のためのボランティア入門講座」が参加者0人。“当日ボランティア活動”には積極的に参加するけれど、事前に講座を受けるとなると腰が引けたようで、参加しやすい形にしようと「チャレンジフェスタ やってみりん」を企画。毎月打合せに集まって、最後に「本番」としてイベントを開催する形で募集したところ、地元の中学生6名が参加。「針金細工、ポップコーン、宝探し、ポッチャやモルック」等の6つの企画を一人ずつ担当する。刈谷西部自治会のにぎわいづくりとして行う75周年イベントの一貫として、3月7日(土)10時から14時まで亀城公園北側広場で開催する。隣接する体育館で行われるVリーグの試合のため来場者が増える可能性があり、準備に危機感はあるものの、参加している中学生が本当に優秀で頼もしい。

## ■質問・意見交換

### 【地域連携フォーラムの実践】

部会長：行政、企業、学校、中高生、地域学校協働活動のコーディネーターの方とまちコが同じテーブルだった。中高生からいろいろな意見が出され、学校の授業でボランティアの協力が欲しい、情報を発信するにはど

うしたらいいか等、とてもよく考えている。年齢層や職種が異なりとても面白い議論ができたので、何度でも続けてほしい。

事務局：参加されていた刈谷中学校の副校長へ、しゃべり場等の紹介を依頼した。中学生はいろいろなものに興味があり、参加する・しないは別として、案内をしていただけるのはありがたい。

#### 【まちコの自主活動：中学生のまちづくり活動への参画】

委員：企画書（以前、つなぎの学び舎で守随さんがまちコ対象に用意された書式）を中学生に書いてもらったところ、すべての枠が埋まった。それをもとに企画を担当してもらい、イベントを進めている。ちらしも canva を使いこなす子がいて立派に出来上がった。企画づくり、TODO リストや手順書づくりを進めている他、コアになる仲間を集めて、当日のボランティア数の算出を進めている。針金細工はWAFCAのバックアップを受けたり、刈谷市スポーツ推進委員協議会から派遣を受けたり、いろいろな大人のサポートを受けた。業者や行政のやり取りは大人が行う。土日は部活や塾で忙しいため、19時ごろに刈谷西部市民館で集まって進めている。

部会長：参加者の一人から「楽しい」と聞いた。公募の際に、親御さんも関心があって、保護者の後押しがあったのだろう。親御さんも一緒に取り組めるとよい。

委員：刈谷東中学校長にイベントのTODO リストを見てもらったところ、「ここまで子どもたちがやっているということが分かるように、親御さんに見せてほしい」とコメントをもらった。中学生は自分たち大人にはない感性で考えている。

部会長：中学生も事業に巻き込むとよい。中学生の時に、地域活動やまちづくりに関わることが、将来地元で活動する上でつながりができてよい。

## 2 共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

### ■【資料2】を提示し、協議事項について事務局が説明

#### （資料2／共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討）

- ・令和5年度より、地域活動の活性化をテーマに、共存・協働によってまちコを含む市民活動の担い手が地域活動に参画することで地域が抱える様々な課題の解決に役立ち、よりよい活動につなげていくための方策を検討している。
- ・令和6～7年度に取り組んだ「築地自治会の事例（役員体制の再編）」を紹介した。（詳細は別添）
- ・今回の事例は、まちコが、「他地区の事例も紹介しつつ、役員の発言や想いを引き出しながら、役員が主体的に関わる体制にむけて伴走支援した」という形の、一つの実績と考えている。
- ・今回の事例から見えてくる共存・協働で取り組みそうなこと、他地区へ展開できる汎用性の高い部分について、ご意見をいただきたい。課題に対する他の解決策や解決に資する情報、今後の取り組み方に関するアイデアも歓迎する。

### ■質問・意見交換

#### 【地域団体へのまちコの関わり】

部会長：自治会の組織や活動にまちコが位置付けられている地区はあるか。

委員：刈谷西部地区では、まちコが活躍している。

事務局：刈谷中部地区は町内会役員とまちコを兼務している方がいる。

部会長：まちコには地区の課題解決にヒントを出してもらって役割が期待されていた。自治会長が推薦して「つなぎの学び舎」を受講される方もあった。自治会長は交代していくが、まちコは代わらず関わってくれることで、いろいろな物事が回っていくのではないかと。自治会長とのつながりも、組織上は難しい面があるかもしれないが、うまく連携しながら取り組めるとよい。

事務局：まちコが自治会の活動の中で活躍していただくのは理想的なことである。今回は、まちコ派遣をきっかけに、まちコと自治会が関われるよう、派遣した3名のうち1名は築地在住で地域の状況に詳しい方、1

名は他市で町内会長経験のある方、もう1名は別の地区で自治会長を務めている方。それぞれ異なる立場から助言をいただいた。特に築地在住のまちコさんは行事にも精通しており、役員さんと一緒に具体的に考えてくれて、選任してよかった。

部会長：地域の現場では、他の地域に関する情報があまり知られていない状況がある。まちコが介して隣の地区と一緒に何か取り組めるとよい。

### 【まちコ同士がつながり広がる地域の知恵】

委員：生涯学習課が「生涯学習リーダー」の育成を開始した当初、各地区にリーダーがいて地区とつながっていて、リーダー同士もまたつながって、いろいろな地区のことを分かるとよい、という構想がされていた。まちコも同様に、地区に「まちコ」という頼りになる方がいて、情報をまちコ同士が横につながり共有できるようにするのが理想だと思っている。そのため、地区からまちコの推薦をしていた時期もあったと理解している。

事務局：コロナ禍以前はそういう時期もあったと聞いている。

部会長：地区にまちコが3~4名いるのが理想である。そのために数を増やしていく方へシフトするか、今いるまちコさんを大事にするか、考えていく時期である。

委員：井ヶ谷地区の女性の会で役員の声かけに苦勞しているが、元刈谷地区は組織図がしっかりしていて人不足になったことがないと聞いた。「生涯学習リーダー」の構想のように、リーダー同士で情報交換できるのはよい。

### 【まちコの活躍が広がる地区へ向けて】

委員：つなぎの学び舎には、ボランティア活動に熱心な方や、企業の中で社会貢献活動に取り組む方などが受講していた。受講当時現役だった人は、定年後にまちコとしての活躍が期待できる。小山や築地など地域での取組事例が生まれてきているため、あらためて地区へ受講者の推薦を呼びかけてもよいかもしれない。

事務局：自治会長さんがそう言うくださるのは大変ありがたい。地域からは「人を選出できない」という声も多く、今は「良い方がいればご紹介ください」としてお願い程度にとどめている。

委員：次の自治会長の候補に参加を呼び掛けてもよいのでは。

事務局：やりたい人がいればよいが、受講が負担とならないよう留意したい。

委員：組織の中にまちコが位置づけられた場合、自治会の運営がまちコ頼みになってしまうと負担になりかねない。地区の推薦で、地域の方につなぎの学び舎を受講していただくのは賛成だが、負担が大きくなることは避けたい。組織のオブザーバー的な立ち位置で客観的にサポートする役割にまちコがなれるとよい。参考となる情報を提供したり、議事録を取ったりする役割だと参加しやすい。その中で、手いっぱいなところがあれば、補助役として関わるとよい。また、それをまちコ同士で共有することが大切だ。

### 【地域同士で知恵を分かち合う】

部会長：以前、「わかまのつむぎ場」に地区の参加を促すため、23地区の「地区だより」を掲示した。組織図や予算を載せているところもあり、他の地区を見てこれいいね、と声が上がった。他の地区のことは知られていないことが分かった。例えば、自治会費は地区によって異なる。組で集めて一部を自治会に納めるところもあれば、自治会に納めて組へ渡す場合もあるなど、自分の納めた自治会費の使われ方が分かるようになるのが望ましい。東刈谷では、引っ越してきた方にごみ袋を班長が届けると聞いた。役員のやり方によって地域の雰囲気が変わる。

委員：各地区でやり方が異なる。自治会長になると膨大な資料が渡されて、半年ほど経って慣れてくると状況が理解できるようになる。1年間で交代する場合はそのやり方では難しい。また、地区の清掃活動に参加すると費用補助が支給されたことがあった。その情報も周知したら多くの参加につながったように思う。上限があるため、申込が殺到した場合の対応も考えておかねばならない。客観的な立場で、困ったら助け船を出す役割として、自治連合会などで築地の事例を紹介し、同様の取り組みを広げていただきたい。

事務局：桜地区ではボランティア部が組織され、イベント運営に参画していると聞いた。イベント運営のボランティアだけでなく、地区の会議にも役員以外の人や外部の人が参加できる仕組みが、誰から見ても分かりやすく開かれた形になると望ましい。

部会長：試行的にできるとよい。第三者的な立場から、成果が出ている事例が聞けると皆が頷けることもある。行政が地区に出向いて参考となる意見を述べることはあるか。

委員：行政の方が地区に行ってお願いをすることはあっても、「こうしなさい」ということはない。「自治」会でなくなってしまう。市内23地区、23通りのやり方がある。

事務局：市にはさまざまな意見や問合せが寄せられ「自治会を指導してほしい」という声もある。ただ指導する立場ではないため、ご意見としてお伝えし、他地区の事例を紹介するなど、具体的に指示しない対応をしている。

委員：地区長と自治会長とあるが、現状全地区同じ人が担っている状況である。

委員：刈谷市では全て同じ人が務めているが、他市では異なる場合も多い。指導してしまうと「自治」ではなくなる。地区それぞれの形がある中で、まちコの役割が機能するとよい。

### 【地区役員を支える役割】

委員：地区にまちコが一人はいるとよい。自治会の取組を知っている人がいて年度のはじめからアドバイスをしてくれたら随分楽になるのではないか。

委員：「感じの良い忍者」のような存在がいるとよい。自治会長の大変さは、誰も話を聞いてくれない、褒めてもらえないことにあるのではないか。分厚い引き継ぎ書を一緒に読んでくれるようであればいい人がそばにいたらよい。

委員：一生懸命読んでいるうちに1年経ってしまい、次の人に渡すようなこともある。

部会長：役員の人選は、近所のつながりが薄くなったことによって、選ぶ対象がないため難しくなっている。そうした時にまちコさんなど、よく知っている人がアドバイスしてくれるとよい。

### 【地区役員と知り合う】

委員：住民から見ると、自治会長は分からないが、班長や回覧板を回してくれる人は分かる。回覧板を回す対象の人も減っていて全員の顔は分からない。自身も、班長・婦人会・氏子総代の役を隣の人から「順番に回ってるから」と声がかかり断れないという状況にある。氏子総代は毎月掃除があると言うが、子どもの習い事の送迎もあり、不安がある。そのように役割が集中すると、できなくなった場合に穴が開いてしまうし、公平性に欠けるように思う。仮に自分は3つの役を引き受けたとして、次の方に同じ役割を頼んでいいのか、誰に相談していいのかも分からない状態。地域にまちコがいるのかはわからないが。

委員：自分の地区では「隣保長」は3年に1度回ってくる。回覧板に次の順番が振ってあるので、再来年に回ってくるのが分かっている。家族が地域活動に参加する際、最初は不安そうだったけれど、入ってみたら顔見知りが増えて楽しくなっている様子で、それが“まちづくり”だと感じている。まちコなどの外部のオブザーバーが助け船を出すことで、困っている状況が分かると、班長も声をかけることができる。対して、近所づきあい。隣近所の情報がないと、次の人を考える素材もない。その情報が滞っていることが原因で、ボトルネックが解消され、理解するだけでも状況は変わるし、理解してもらえていることが分かれば、安心感がある。

委員：回覧板や掲示板の情報だけでなく、地区のイベントに参加する体制を作ること。そうすると誰が自治会長かといった地域の人々の顔が分かる。楽しいイベントを作ってみんなの参加につなげるのが効果的だろう。

委員：イベントには参加するようにしているが、地区の人々の見分けがつかない。

委員：例えば、イベント時に自治会の相談ブースを設けて、自治会長とそこで話ができるとよい。

### 【地域での企業の役割】

委員：多くの市民は私と同様に地域の情報を知らないだろう。多様な市民が増えてきている中で、例えば外国語対応していないなど、健康で回覧板が回る範囲の人にだけしか情報が届いていない状況が考えられる。福祉の現場に携わる中で、福祉事業所が果たす地域の中の立ち位置について話し合うことがある。B型事業所を立ち上げた経験から、地域の企業をいかに巻き込むか、考えていくと面白いのではないか。企業は移動もなく地域にあり続ける存在なので、まちコの養成講座を受けてもらったり、住んでいなくても地域の会議に参加したりすることで、事業所を知ってもらう機会にもなる。また、施設外作業として工賃をいただくしくみがある。アパートの掃除やボランティアなどを依頼してもらえたら win-win になる。福祉

事業所にとってもファシリテーションなどの技術が高まり活性化する機会となるので、よい循環になるのではないか。

### 【地域単位の課題解決】

部会長：地域の困りごとは地域の中で、班長、組長、自治会長、それでも解決しないことは行政に相談して解決していくのが望ましい。小さなことは班長や組長が対応できる。近所から苦情を受けた際に、近所のお世話役的な方と一緒に話をして、解決した。小さな単位で解決できれば、行政が動くこともない。行政に連絡があると対応しなければならず、話がややこしくなる。自治会内に問題を解決する力が備わっていて、その機能を果たしているといいが、現状難しくなっている。自治会の中で問題を解決する力があるべきだが、取り組むにはめんどうなこともあり、トップの考え方にもよる。地域や自治会の問題に行政が関わるのは大変だと思う。個人的には道路の穴を写真に撮って投稿するしくみより、自治会長や班長に地域の問題を伝えたほうが良いと考える。こうした問題にどう向き合うかを、班長さんや組長さんは事前に学んでいるのだろうか。実際に“こんな時はこう対応する”という取組がある自治会が分かれば、大きな手本になると感じる。

ガバー：1つ目に、中学生の力について。市民公園づくり会議のグループワークでは障がいのある子や中学生たちが意見を積極的に発言していた。スケートボードパークができるなど、発言が実現すると嬉しいだろう。若い世代、10代が会議やボランティアに参加することは大切だと考える。2つ目に、まちコが地区に一人いるとよい、という点について。スポーツ推進委員を長く務めており、非常勤職員として地区に1名置かれている。公民館長の推薦で任命されるが、なかなか担い手がいない。公民館長の次の役職として就く方が多い。上からの指示で組織をつくる方が簡単かもしれないが、現場から自然に形作られる方が望ましい。そこで、スポーツ推進委員を公募したところ9人応募があり、面談では前向きな意見が出された。公募にすることで土台ができていくと考える。つなぎの学び舎も広く受講希望者を募る形だと思うが、講座回数が多い印象がある。ある団体の担い手不足の課題において、実際の活動を通して学んでもらうOJTが大切だと聞いた。入口は簡単にして、現場のOJTを加えると少し入りやすくなるかもしれない。

部会長：地区の課題は共通する。特定の人に負担が集中したり、前年踏襲の取組になっていることに対して、疑問を持っている人もいるが、変えるきっかけをつかむのが難しい。地区の中の人かやる気にならないと難しい。その際のヒントとして他の地区の情報をわかるようにし、まちコも関わって工夫して取り組まれるとよい。本日の議論を通して、新しい取組や、問題に対して解決する様子かわかり、大変うれしく思う。

## 3.今後の予定

●第3回推進委員会 3月10日(火) 午前10時30分～正午 刈谷市役所7階 701 会議室

以上